防水工事の匠集団

県外壁改修工事業協組創立総会

初代理事長に原田氏

県外壁改修工事業協同組合の創立総会が26日、鹿児島市のパレスイン鹿児島で開かれ、定款制定や初年度事業計画・収支予算案などを原案通り可決、初代理事長に原田毅氏（㈱南防）を選出した。

総会は、畠中清治氏（㈱上別府工務所専務）の進行で開会挨拶の後、原田氏が発起人代表として「新年から組合設立に向け団体中央会の指導の下、23社の同意を得て本日を迎えることができました。よろしく審議ください」と挨拶。

上別府満氏（㈱上別府工務所）を議長に選出しての議事では、初年度及び次年度事業・同収支予算案など、すべて原案通り可決、役員選出では、新理事長に原田氏が選出された。

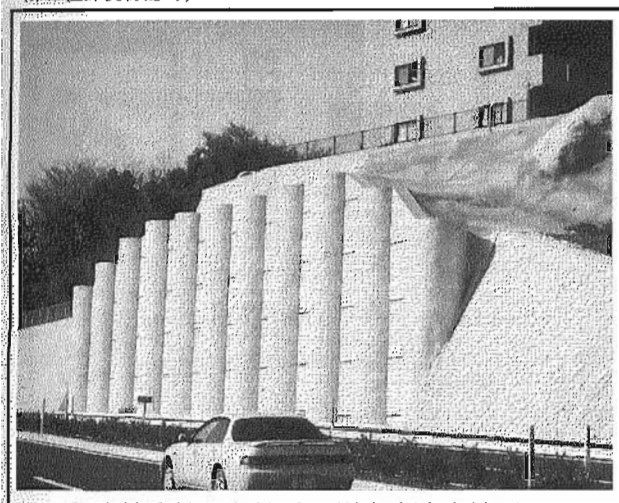
原田新理事長は「厳しい中での船出で、苦難が予想されるが、異業種交流は情報交換の場にとどめ、防水工事の匠集団として独自の道を進め、技術レベルの温度差をなくするため、共通仕様書を作成してアフターを徹底するなど、前進あるのみなので戦に負けない団体にしていきましょう」と挨拶した。

同協組は、環境負荷の低減というグローバルな視点からも廃棄より維持保全といった改修工事が主流となった市場のなか、外壁補修・耐震補強工事、外壁の調査診断などの共同受注を目的とし、防水工事で培った多くの経験をもとに真の専門技術集団として設立され、4月1日から事業を開始する。

初代役員は次の通り。

理事長＝原田毅▽専務理事＝堀之内茂（㈲ダイヤモンド技建）▽理事＝上別府満、濱田光一（ハヤト工業）▽監事＝溝口隆志（南日防水工業㈱）

前進あるのみと呼び掛けた創立総会
＝鹿児島市のパレスイン鹿児島で


抑止杭を使った擁壁＝川内市冷水地区で

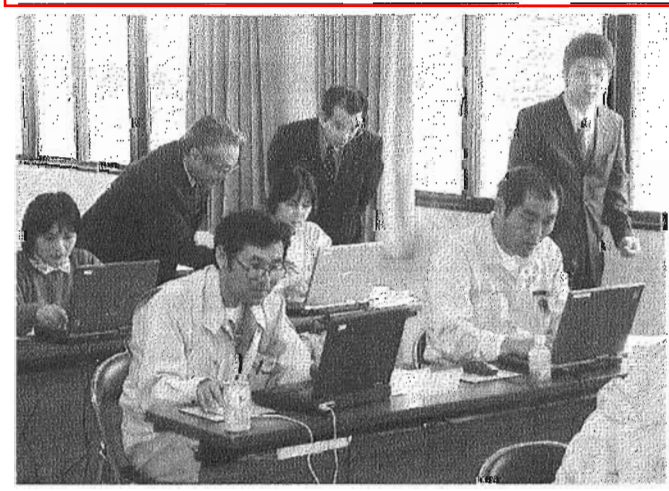
白亜の杭擁壁が出現

国道3号隈之城バイパスに

3月7日に開通した国道3号隈之城バイパス切土面に抑止杭を使った擁壁が人目をひく。抑止杭は、通常の橋などの基礎で使う杭と同じ構造だが、杭が表面に出てくるのでそのままだと道路利用者に圧迫感を与えることから白色の塗装で表面処理。斜面頂上に建つマンションとあいまって、さながら白亜の殿堂のような趣きがある。

場所は川内市冷水地区。斜面頂上付近にはマンション等の住宅があり、通常の工法では民地側に影響を与えることから同工法を採用。また、すべりだけでなく土圧に対する対応も必要なことから土留め壁を兼用した構造になっている。

抑止杭の直径は2000㎜。土留め壁となるコンクリート壁は幅が2㍍、厚さ400㎜。高さに制限はなく、余分な切土も生じない。施工費用は約12万円／平方㍍（地表部の面積当たり）と他工法と比べれば最も高いが、用地補償等の費用が生じないため全体額では最も安価になる（鹿児島国道事務所）。同区間走行の際のご参考までに。


疑似体験に熱心に取り組む会員
＝頴娃町の町民館で

頴娃建設業青年部建友会

電子入札を疑似体験

技術研修会

頴娃建設業青年部建友会（堀之内強会長）は26日、頴娃町の町民館で第1回技術研修会を開き、会員約15人が参加して電子納品や電子入札の疑似プログラムなどを体験した。

今回の技術研修会は、CALS・ECや17年度から本県でも試験施行される電子入札などに、会員が速やかに対応するために計画されたもの。今回は、講師指導に日建学院、福井コンピュータ㈱、㈱コンピュータシステム研究所のサポートを得て実施された。

冒頭、堀之内会長が「今、建設業は大きな変革の時期を迎えている。今後、施行される電子入札・CALS・ECなど、さまざまな新システムに対応するためにも、各々が危機感を持って今日の技術研修会に臨んでほしい」と挨拶。

続いて、電子納品の仕組みについて福井コンピュータ㈱の池田琢氏より説明がなされた後に、㈱コンピュータシステム研究所の河津竜司係長が中心となって、土木用CAD製図基準への対応と、電子入札疑似プログラムを実際に体験。参加者の中には、パソコン操作を初めて体験する者も見受けられ、参加者らは真剣な面持ちで取り組んでいた。

4トントラック2台分も

清掃奉仕でごみ収集

住用村役勝川愛護会

住用村役勝川愛護会は27日、大島郡住用村の役勝川で河川内及び河川敷のボランティア清掃を実施、4社から約40人が参加してごみや空き缶を除去した。

同会は、①役勝川に生息するリュウキュウアユなどの稀少動物や自然を次世代に残す②台風や多雨期に起こる災害防止③赤土流出防止対策－等を目的にして㈱平良建設の小野浩一常務取締役を代表に25日設立した。

当日は同会の村内業者4社（㈱平良建設、㈲三浦建設、㈱房永建設　市田建設㈱）から約40人が参加し越次橋～新村間約4㌔にわたり役勝河川の清掃作業を行った。参加者らは㈱房永建設事務所前に集合した後4班に分かれ、ごみ袋を片手にそれぞれの担当区域でごみや空き缶を拾った。

作業終了後に集められたごみは4トントラック2台分にもなり、中には台風で吹き飛ばされたと見られるガードレールやトタンなどもあった。小野浩一代表は「今後は地元の青壮年団や子供会、婦人会にも声を掛け、協力して役勝川を守っていきたい。暖かくなったらダイバーを使って川底のごみなども収集したい」と話していた。

自然保全等を目的に実施した清掃
＝住用村の現地で

第131回県都計審

産廃施設等32件を承認

県都市計画審議会は29日、鹿児島市の県自治会館で第131回の会合を開き、川内都市計画区域の整備・開発及び保全の方針の決定（通称・区域マスタープラン）など25件のほか、産業廃棄物処理施設の用途に供する建築物の位置等7件の合計32件を審議、全議案とも原案通り承認した。

審議では、各地方自治体から提出されたマスタープラン等について事務局から、軽微な変更に関する案件や都市計画区域マスタープランについて説明、特に指摘事項もなく承認された。また、産業廃棄物などの審議では施設周辺への影響や都市計画上支障がないことなどが確認され、是正措置を認めた。

てぃーぶれいく

エアロでリフレッシュ

堀之内　朋子さん

佐賀県出身の私は、学生時代を福岡で過ごし一昨年4月に鹿児島に来ました。初めは言葉と日差しの強さに驚きと戸惑いを感じましたが、今はもうすっかり慣れて毎日楽しく過ごしています。入庁して約1年が経ち、業務は電話交換や文書作成など事務全般を担当。中でも電話応対は相手の気持ちを考えて、失礼のないよう丁寧に応対することを心掛けています。

趣味は、体を動かすことが好きで、学生時代に出会ったエアロビクスは今でも週1回は必ずスポーツジムに通い、汗を流すことでストレス解消にもなっています。健康のためにもお薦めのスポーツですよ。明るさと元気の良さが私の取りえ、これからも笑顔一杯で仕事にもプライベートにも頑張っていきます。

（国土交通省九州地方整備局鹿児島国道事務所総務課）

経営者講習会等柱に

県建築協会青年部会総会

県建築協会青年部会（林正英部会長）は4月30日、鹿児島市のパレスイン鹿児島で16年度定時総会を開き、経営者講習会やIT勉強会の開催、ホームページの構築などを柱とする新年度事業計画を決めた。

総会では、林部会長（豊明建設㈱）が「青年部会の一番良いところは、一致団結して取り組む姿勢ではないか。激変の時代ではあるが、変化にすばやく対応するためにも自分自身が変わらなければならないのでは。今後は、皆さんと一緒に同部会の発展のため最大限の努力をしていきたい」などと挨拶。

末廣浩二氏（㈱末広建設）を議長に選出して議事に入り、15年度事業報告・決算承認、16年度事業計画・予算案等を審議し、全て原案通りに可決承認したほか、新入会員の東優一氏（㈱東玉建設）の紹介も行われた。

部会の発展のため最大限の努力をしていきたい――と挨拶する林部会長＝鹿児島市のパレスイン鹿児島で

新年度事業計画は、会員手帳のイントラ移行に伴うコスト削減、経営者講習会や現場見学会・技術講習会、イントラネットの推進、ホームページ構築、IT勉強会などのほか救命救急講習会や高齢者世帯等奉仕作業等―を掲げている。

創立を祝い乾杯する出席者＝鹿児島市のパレスイン鹿児島で

県外壁改修工事業協組創立祝賀会

技術集団として貢献へ

県外壁改修工事業協同組合（理事長・原田毅㈱南防社長）は4月30日、鹿児島市のパレスイン鹿児島で創立祝賀会を開き、県、鹿児島市をはじめ業界関係者らが出席し同会の設立と飛躍を祝った。

祝賀会では原田理事長が組合設立に当たり中央会の指導の下、多くの関係者の協力で設立できたことに感謝を述べ、「建築業界も市町村合併や新幹線開業でグローバルな時代を迎え、さらに厳しさを増すものと思われる。会員23社が真の技術集団として共通仕様書を作成してアフターを徹底するなど、技術力をもって、しっかりしたものを提供することが社会に貢献することだと確信している」と挨拶。

次いで、安藤恒次県住宅課長が「公共事業は厳しい状況にあるが、一定の社会資本整備は必要です。これからは新しいものを造る時代ではなく、ストックを有効に活用する時代であり、同組合が品質の確保等に向け一丸となって取り組むと聞き力強い」、園田太計夫建設局長（鹿児島市長代読）が「これまで培った経験と実績をもとに、真の技術集団として本市の街づくりに協力を」、中山克巳県建築設計監理事業協同組合理事長が「建物は人と同じで年を重ねれば老朽化する。今回設立した組合は建物の病院にあたいする。建物の審査から調査、工事までを行う集団としてお互い同じ目的意識を持った団体として頑張ろう」と挨拶した。

このあと、上山一吉県建築協会副会長の乾杯の発声で祝宴となった。

新年度事業計画等を審議した総会＝名瀬市の大福で

第一相互警備保障

サテライトみぞべ 警備へ消火訓練

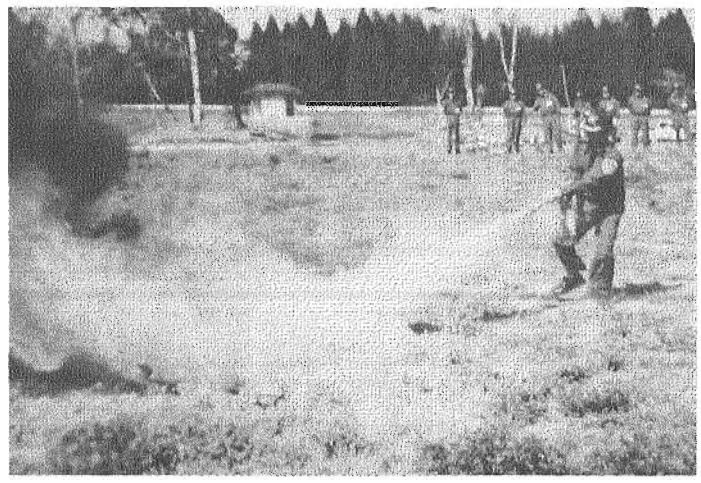
第一相互警備保障㈲（井上文雄社長、本社・大口市）は4月24日、同市下殿の多目的公園で、社員約20人が参加して消火訓練を実施した。同社が姶良郡溝辺町の競輪場外車券売場「サテライトみぞべ」の警備を担当することになったことから行ったもの。

集合した参加者を前に井上社長は「警備は生命、財産を守る重要な業務。常に第3者の目を意識し、姿勢を正し、制服の品位を守らなければならない。今日は訓練ではなく、本当の火災だと思って行動してほしい」と挨拶し、早速訓練を開始した。

訓練は、火点から10㍍の位置にカラーコーンを立て、さらに25㍍離れた位置に隊員が整列。そこから火点を発見したという設定で行われた。

隊員は1人ずつ挙手して姓名を名乗り「実施します」と発声、機敏な動作でカラーコーンに駆け寄った。そこに準備された消火器を手に火点まで走り、ピンを抜いて消火作業を行った。ガソリンと灯油、水を混合したものに点火した火点は、黒煙を発して高く燃え上がり、隊員は真剣な表情で消火器を操作していた。

完全に火が消えたことを確認して「状況終わり」と発声、一連の作業は終了したが、参加者の1人、「サテライトみぞべ」で班長を務める小山文男さんは「日頃の訓練の成果だろうが、全員基本にのっとって大変スムーズに消火できたと思う」と笑顔を見せていた。



機敏に消火作業を行う隊員＝大口市の現地で

笠利町建友会総会

新会長に山下氏を選任

山下義和新会長

笠利町建友会（浜田幸雄会長）は4月30日、名瀬市の大福で16年度通常総会を開き、15年度事業について話し合った。任期満了に伴う役員改選では新会長に山下義和氏（㈱山下建設）を選任した。

冒頭、浜田会長は「昨年度は無事故無災害で無事終えることができた。これもひとえに会員の方々の協力があったからで心から感謝したい。新年度は地域の発展のため致団結して取り組もう」と挨拶を行った。会では15年度事業報告、16年度事業計画・収支予算案などを原案通り可決、役員改選では会長に山下義和氏を選任した。

新会長に決まった山下氏は「前会長の奉仕の精神を引き継ぎ、地域発展のため貢献したい」と抱負を述べた。

新役員は次の通り。

会長＝山下義和▽監事＝里山正昇（㈱里山組）

鹿児島市都市計画部都市再開発課長に就任した

川辺　充二氏

かお…人

「以前からの職場での就任ですが、課の責任者として改めて気が引き締まります。再開発をはじめ、全て関係の方々と協働して行うものなので、よく話し込んで、和をもって楽り組んでいきたい」と抱負を語る。また、「当課のやる気がそのまま事業の進捗につながるので、課のモチベーションや雰囲気づくりには特に意を用いたい」。

再開発事業と優良建築物等整備事業があり、16年度は中央町22番街区、23番街区における推進計画作成調査などのほか、鹿児島駅周辺地区において、県の連続立体交差事業調査と連携して土地区画整理事業や西千石町13番街区市街地再開発事業が昨年度に完成し「関係者が多い中で、いろいろ壁にぶつかりながら、その時々に話をして進めてきた」という。特に再開発は地元権利者や関係の方々と進めなければならないことから、印象深いとか。

鹿児島大学大学院修了、昭和54年10月に建築指導課に配属され、以後、都市整備事業や西千石町13番街区市街地再開発事業が昨年度に完成し「関係者が多い中で、いろいろ壁にぶつかりながら、その時々に話をして進めてきた」という。特に再開発は地元権利者や関係の方々と進めなければならないことから、印象深いとか。

鹿児島大学大学院修了、昭和54年10月に建築指導課に配属され、以後、都市整備課を経て、平成10年4月に再び都市再開発課に戻り、現在に至る。

趣味は健康も兼ねて歩くこと。好きな言葉は「ゆっくりと、しかし着実に」。鹿児島市鷹師2丁目に夫人と2人暮らし。娘が今年進学し、これで子供2人とも県外に出て「残ってくれると思ったのに」と少し寂しそうだった。昭和29年生まれの49歳。

（原口省造・報道部）

課内の雰囲気大切に